⑤	④	③	②	①
ウ	ア	イ	ウ	イ

［かいせつ］

（1）「お姉ちゃんでしょう」という言葉でがまんさせられるのがいやだから、カナは耳をふさぎたくなったのです。

（2）後ろに「何でもかんでも『お姉ちゃん』の一言でかたづけられるのがいやだった」とあるので、そこから考えます。

（3）さとるに「赤いクレヨンでぐちゃぐちゃにぬりたくられていた」から、一年使ったように見えたのです。

（4）「お姉ちゃんでしょう」と言うお母さんに「がまんできなくなった」とあるので、カナはいつもそんな理由（ゆう）でがまんしなければならないことがくやしかったのです。

（5）「口を開いたらさとるに何を言ってしまうかわからない」と書いてあります。カナはひどいことを言って弟のことをきずつけるかもしれないので、聞こえないふりをしたのです。

⑤	④	③	②	①
エ	イ	ウ	イ	ア

［かいせつ］

（１）後ろに「ドキドキうるさい心ぞうを落ち着かせるためだ」とあるので、たかしはきんちょうしていたのです。

（２）「まただめかぁ。」とたかしが言っているので、ため息をついたのは、さか上がりにしっぱいしたからです。

（３）「くちびるをかみしめていた」のは、自分一人だけさか上がりができなくてくやしいためです。

（４）みんなが「くるくる」さか上がりをする様子が風車のように見えたのです。

（５）たかしがさか上がりをしたので、けしきが回って見えたのです。

⑤	④	③	②	①
ウ	エ	ア	イ	ウ

［かいせつ］

（1）カナはお母さんの「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」という言葉がいやになっているのです。

（2）さとるに「ぐちゃぐちゃ」に落書きされたので、カナは「なきそう」になっているのです。

（3）さとるの声に元気がないのは、自分のしたことを悪いと感じているからです。

（4）「目をこらす」は何かをたしかめるようにじっと見つめること。

（5）前の文に「さとるが一番大切にしているロボットの人形」とあるので、人にさわらせないほど大切にしていたことがわかります。

⑤	④	③	②	①
ア	エ	ウ	イ	イ

［かいせつ］

（1）「まただめかぁ。」と言っているので、何度かやっているがうまくいっていないことがわかります。

（2）「落ちこむたかし」に先生が「きっとできるようになる」と言ったので、たかしを元気づけようとしているのがわかります。

（3）さか上がりができずにいるたかしのすがたが、「木から落ちかけたコアラ」に見えるのです。

（4）前の文に「何度もさか上がりにチャレンジした」とあるので、さか上がりを練習するために何度も鉄ぼうをつかんだから、手が赤くなったのです。

（5）後ろに「さか上がりができるようになるまでは、家に帰りたくない。」とあるので、たかしがくやしがっているのがわかります。

⑤	④	③	②	①
イ	ア	エ	ウ	イ

［かいせつ］

（1）えりこは「家のかぎがない」と気がついたので、あせってさがしています。

（2）後ろの文に「なきだしそうな弟の手をにぎると、元気よく歩き出した」とあることから、弟を安心させるために、わざと大きな声で話したことがわかります。

（3）「びくびくしながら」は、何かをこわがっている様子を表（あらわ）します。

（4）お母さんは家にいるはずの二人が店まで来たのでおどろいて目を丸くしたのです。

（5）前の方に「わたしはお姉ちゃんだから、こんなことくらいでなくものか」とあるので、えりこは自分がないたら、弟を不安にさせてしまうと思ってなみだをこらえていたのです。

⑤	④	③	②	①
イ	エ	エ	ウ	ア

［かいせつ］

（1）「家のかぎがない」ことに気づいたみゆきが、いっしょうけんめい思い出そうとしているのは、かぎをわすれてきた場所（しょ）です。

（2）前の文に「いつもとかわらない同じ道だ」とあるので、昼間通る道と同じなのに、夜で真っ暗なのでふだんとちがうと感じたのです。

（3）後ろの方に「ただの大きなバイクだった」とあります。

（4）「目を丸くする」はおどろいたときにする動作（どうさ）です。

（5）前の方に「わたしはお姉ちゃんだから、こんなことくらいでなくものか」とあることから、みゆきは「お姉ちゃんだから」と今までがまんしてきたことがわかります。みゆきは、お母さんの声を聞いて安心したのでないてしまったのです。